

周辺のみどころ

季節、時間、天候、場所。そして眺める人の感性。竹生島はそれぞれに美しく、けっして同じ表情を見せることはない。

彦根付近から奥琵琶湖を経て対岸の高島に至るまでの琵琶湖岸には、一部を除いて湖周道路が整備され、竹生島を眺望できる。澄んだ空気の中をくっきりと浮かぶ島影もあれば、時雨にかすむ時もある。琵琶湖八景「新緑竹生島の沈影」はその一コマに過ぎない。自分のお気に入り眺望地点を探しにちょっと一足、琵琶湖岸を散策するのも楽しい。



高月町西野水道沖合付近から見た竹生島と葛籠尾崎



【アクセス】

●近江今津港・長浜港・彦根港などからの定期航路があるほか、様々な観光企画旅行で訪れることもできる。

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】
(関連文献/関連施設)

- 宝厳寺宝物殿 (文化財を多数公開) TEL 0749-63-4410
- 陳舜臣・峰覚海『古寺巡礼近江3 竹生島宝厳寺』淡交社
- 週刊朝日百科日本の国宝79『彦根城 向源寺 都久夫須麻神社』朝日新聞社
- 週刊古寺をゆく別冊7『宝厳寺と湖北の名刹』小学館

竹生島

長浜市早崎町



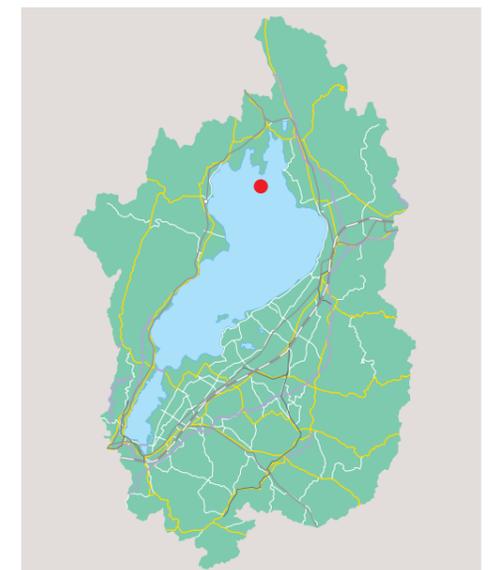
竹生島全景

竹生島はいにしえより人々の篤い崇敬を集めてきた湖上の名勝の地である。

奈良時代に行基が四天王像を安置したのが竹生島信仰の始まりと伝えられるが、琵琶湖の水運における湖上の目印として、それ以前から船人たちの心の支えとなり、またその信仰を集めてきた。

今日の竹生島は、琵琶湖八景「新緑竹生島の沈影」の景勝地、西国三十三所観音霊場第三十番札所、そしてまた日本三弁財天を祀る霊場として賑わっている。

島の急斜面に建つ堂宇の数々。その景観にいにしえからの強い信仰心が感じられる。





国宝宝厳寺唐門の唐破風

竹生島

所在地 長浜市早崎町

竹生島 その姿

約670平方kmの広さを誇る琵琶湖。その湖にある数少ない島うち、近江八幡市の沖島に次ぐ大きさなのが竹生島で、その面積は0.14平方km、島の周囲は約2km、最高所標高は197.4mである。その位置は奥琵琶湖の葛籠尾崎から約2km南、東側の長浜市早崎町の湖岸からは5km、西側の高島市今津浜の湖岸からは約9km沖合にある。琵琶湖の北湖はしばしば「うみ」と称されるように広い。その広い湖においてこの島は、航海の目印としての役割も果たしてきた。

湖に浮かぶその島となりは美しい。琵琶湖八景のひとつ「新緑竹生島の沈影」として知られ、島全体が名勝史跡に指定されている。しかし近年、カワウの繁殖による島の環境変化が著しい。緑豊かな植生とサギをはじめとした多様な鳥類が生息するかつての竹生島。再生に取り組み、未来へ引き継いでいくべき水の宝である。

竹生島 その信仰

竹生島は古来、人々の篤い信仰の対象とされてきた。竹生島にある宝厳寺の寺伝のひとつ『竹生島縁起』には聖武天皇の勅命により僧行基がこの島に渡り、堂宇を建てて四天王像を安置したとある。その後、仏道修行、苦修練行の聖地として元興寺の僧泰平や東大寺の僧賢円をはじめ、平安時代には天台宗の僧が次々と修行に訪れている。

竹生島の神は湖水を支配する水神であり、平安時代前期に神宮寺が成立した。後にその姫神は弁財天として祀られ、日本三弁財天の霊場として知られるようになった。一方、観音霊場としての竹生島は行基建立の堂宇に造立された観世音菩薩にその起源が求められ、平安時代末期に成立した西国三十三所の観音霊場巡礼に霊験所としての竹生島の名前が見られる。今日、観音堂には等身の千手観音菩薩立像が岩盤の台座に安置され、多くの巡礼者が訪れている。



国宝都久夫須麻神社本殿身舎、庇境の彫刻



絹本著色弁財天画像
(南北朝時代 滋賀県有形指定文化財)

国宝宝厳寺唐門と
重要文化財宝厳寺観音堂

竹生島での信仰行事としては雨乞いの蓮華会がある。水との関わりの深い弁財天を本尊とする祭祀で、田畑の豊饒と水をめぐる農耕儀礼であった。戦国大名浅井長政の父寿松が奉納した弁財天像などは頭上に農業神である宇賀神を戴いており、蓮華会の特質を今に伝えている。

竹生島 その宝

竹生島には2件の国宝、宝厳寺唐門と都久夫須麻神社本殿、3件の重要文化財、宝厳寺観音堂、宝厳寺渡廊、石造五重塔がある。竹生島の建造物は鎌倉時代の貞永元年(1232)に全山焼亡の大火をはじめ、幾度も火災や震

災による被害を受けてきた。しかしその度に時の権力者である足利尊氏や織田信長、豊臣秀吉などの支持を受けて復興をとげた。国宝の唐門や都久夫須麻神社本殿、重要文化財の観音堂は豊臣秀頼が伏見城から移築するなどして寄進したもので、豪華絢爛な桃山建築様式を見ることができる。

また寺宝には竹生島経として知られる国宝法華経序品や方便品、重要文化財の絹本著色釈迦三尊像や如意輪観音像、弁財天像、弥陀来迎図など多数の秀逸な美術工芸品が多く、これらの品々にも人々の信仰の篤さと竹生島の悠久の歴史を感じることができる。